

雫石プリンスホテル

贈呈
理由

ヒートポンプチラーの導入により、
職場環境の改善と大幅な省エネルギーを実現



雫石プリンスホテル

極上のスキーリゾートは スキーヤーあこがれの地

雫石プリンスホテルは、岩手山を間近に望む一大リゾート「雫石スキー場」にあり、1990年に開業した。

ホテルのある雫石町は冬の最低気温が-15℃、積雪量が2mを超えることも珍しくない、国内有数の寒冷・豪雪地帯である。

この環境が良質なパウダースノーを生み、スキーヤーあこがれの地として広く全国に知られるようになった。93年には同地で「アルペンスキー世界選手権」が開催されている。

また、ホテルに隣接するゴルフ場は眺望のよさが評判で、春から秋までは多くのゴルファーでにぎわっている。

寒冷地において 20万Lの灯油節減に成功

ホテルの客室(266室)と関連施設の暖房に年間60万~70万Lもの灯油を消費し、リゾートホテルとしての環境負荷低減が課題になっていた。同時に作業面でも、冷房・暖房の切り替え時期には57個のバルブ操作が必要で、その作業に2日を要するという課題を抱えていた。

これらの課題を解決するべく、高効率のヒートポンプ熱源機の導入を検討した。そこに、寒冷地対応大型空冷ヒートポンプチラー(ヒートエッジ)のフィールド試験への協力依頼があり、2015年12月よりフィールド試験が開始された。



空冷ヒートポンプチラー

システムはヒートエッジとボイラとのハイブリッドシステムで、-15℃を超える厳寒の中でも50℃を超える温水を連日つくり出し、結果として20万Lの灯油の節約につながり、さらにボタンひとつで冷房・暖房の切り替えを可能にした。その後、2シーズンを経てヒートエッジ5台の本格導入に至った。

プリンスホテルではエネルギーの有効活用に向けて全社的に取り組んでおり、全国で多くの空冷ヒートポンプチラーの導入実績があるなど、環境活動を積極的に推進している。

一次エネルギー消費量削減効果

従来システム	温水ボイラ 一次エネルギー消費量:69,750GJ
採用システム	空冷ヒートポンプチラー 一次エネルギー消費量:65,434GJ



【諸元】エネルギー使用実績比較
一次エネルギー換算値 ※電気(全日)9.76MJ/kWh
※電気(昼間)9.97MJ/kWh、(夜間)9.28MJ/kWh
※LPG50.8MJ/kg ※灯油36.7MJ/ℓ
※「エネルギーの使用の合理化に関する法律施行規則」

雫石プリンスホテル

所在地:岩手県岩手郡雫石町高倉温泉
建築施工:株式会社 磯竹中工務店
延床面積:13,419.7㎡
竣工:2017年更新

■設備概要
空冷ヒートポンプチラー180kW×5台
(東芝キャリア)